

植物多様性センターの「初夏のひっつき虫」

草の茂った場所で実生の木を抜いていたら、いつのまにか服にタネが付いていました。みるとオヤブジラミとヤエムグラのタネでした。動物にくっついて運ばれる「ひっつき虫」の中でも早い時期に熟すタネたちです。オヤブジラミの名前は藪に多くてシラミのようにタネが体へ付き、同属のヤブジラミより実が大きいことから付いています。ヤエムグラも幾重にも重なって茂るという意味です。どちらの名前も藪に茂る様子から来ていて、同じ場所に生えていて両方のタネを付けられたのも仕方ありませんね。



オヤブジラミとヤエムグラが生える草地。



オヤブジラミ: 果実の長さは5mm以上あり、ヤブジラミより大きい。



ヤエムグラ: 果実は2個の分果からなる。



ヤエムグラの果実: 透明なかぎ状の細かいトゲがある。